

令和6年度 小中一貫コミュニティ・スクール
宗像の郷中央学園 宗像市立中央中学校 学校経営要綱

1 学校経営の基本構想

(1) 学校経営の基本や基盤

- ★公教育としての学校（日本国民としての自覚と責任を涵養する教育）
- ★現代社会の要請に応える学校（地域創造を通じた地域の創り手づくり）
- ★夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要な力を育成する学校（元気学力の育成）
- ★学校・家庭・地域で共育を推進する学校（学園運営協議会と地域学校協働本部の一体的推進）



- ① 「令和の日本型教育」の構築を目指し、日本国憲法及び教育基本法をはじめとする関係諸法規、並びに教育課程の基準である学習指導要領に則した教育に努めるとともに福岡県教育施策、福岡教育事務所重点課題及び宗像市教育施策に基づいた公教育を行う。
- ② 変化の激しい現代社会において、国が予想する 2030 年の社会で活躍できる人材の育成を目指し、新しい時代に必要となる資質・能力を身につけた心豊かな逞しい子どもの育成を重視する
（させられている感・してもらっている感からの脱却・失敗を恐れない勇氣）学園経営重点①
- ③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得を基盤とし、思考力・判断力・表現力の育成を図り、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性を涵養する。
（分からないことを大事にする授業の実践）学園経営重点①
- ④ 子ども一人一人にしっかり寄り添い、子どものよさや可能性の伸長を図る教育を展開する。
（誰一人取り残さないスクールネットの実践）学園経営重点①
- ⑤ 多様な価値観や文化で構成されている社会において、個人としての権利と責務を行使し、よりよい社会の実現に寄与するという目的のために、諸課題を自分事として捉えさせ、10年後宗像市で生きる市民性を育成する教育活動を推進する。
（シティズンシップ教育の推進と深化）（参画から創造へ）学園経営重点①②③
※シティズンシップ教育とは、社会や暮らしの問題に対して、自分事として関り、様々な価値観がある中で、互いの考えを尊重しながら、利害を調整し、課題解決への行動をおこし、市民としての役割を果たせるようになることを目指す教育のこと。
- ⑥ 小中一貫コミュニティ・スクールとして、地域社会の特性を踏まえ、現代社会の要請並びに保護者や地域の要望、子どもの実態に応じ、それぞれの願いの具現化を目指す。
（生徒が主体的考え、動くしくみづくり・地域学校協働活動の推進）学園経営重点①②③
- ⑦ これまで培われてきた文化と伝統を継承し、新たなコミュニティ・スクールとして、中央学園の小中学校・地域・保護者が一体となり、双方向の関係構築に努め、9年間を見通した特色ある学校づくりをすすめる。
（小中の接続重視・地域の大人を巻き込んだ社会力の育成）学園経営重点①③
- ⑧ カリキュラム・マネジメント（教科横断的な教育活動の推進・PDCAサイクルを確立した学校改善・人的物的資源の活用など）の推進を通して、社会に開かれ、社会を開く教育課程を創造する。
（小中をつなぐ総合的な学習の時間のカリキュラム実践）学園経営重点③
- ⑨ スピードダウン（教育活動のスクラップ&ビルド）・リフレクション（教育活動や組織の再構築）・コミュニケーション（対話を通じた協働態勢の確立）を重視した改革を推進する。
（働き方改革の推進・意識改革からまずやってみる）学園経営重点①

(2) 中央学園の教育目標

『目標を持ち、自ら考え、行動し、ねばり強くやり通す、
心豊かで健康な子どもの育成』

教育目標に対する思い

- これからの社会がどんなに変化しても予測困難になっても、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を明確化し、連携・協働を図っていくとともに、それぞれが課題を共有してほしい。特に小中一貫コミュニティ・スクールの活動においては、大人は子どもへのかかわり方を見直し、させられている感・してもらっている感からの脱却と任せる勇気を持ち、子どもたちが主体的に考えて動けるように、自分でやや困難な課題や目標を設定し、周りの人から最小限の支援を受けつつ自らの力で解決に失敗を恐れずに挑んでほしい。さらにかかわった大人や子ども同士がその頑張りを認め、励ますことを繰り返しながら、子どもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心を伸ばしてほしい。
- 宗像の豊かで恵まれた自然や環境、歴史や文化とのつながりを生かした学びを通して、持続可能な社会の担い手として、9年間を見通した教育活動を通して社会力を身に付け、10年後の宗像市で生きる逞しく賢く温かな市民性を育ててほしい。また、ふるさとのまちづくり・人づくりを創造・発信できる行動的な日本国民になってほしい。

【令和6年度 宗像の郷中央学園教育推進のテーマ】

『ふるさとを愛し、進んで、みんなで、最後まで』

【令和5年度～令和7年度 学園の重点目標】

『心豊かな児童生徒の育成』

【令和6年度 生徒会スローガン】

『 *Performance* 止めるな挑戦、楽しめ一年 』

<本県の学校教育目標>

社会的自立の基盤となる、学力、体力、豊かな心を培う。
社会の変化に対し、社会を支え、その発展に寄与する力を育てる。

<宗像市の教育目標>

志を持ち、自分の将来や社会の未来を創造する力の育成

(3) 目指す具体像（生徒像・学校像・教師像・授業像・家庭像・地域像）

① 目指す生徒像（人間力を鍛える）

- <自主・自律> 自分の強みや弱みを理解し、頼れるタイミングや頼れる人が誰かをわかっており、必要なことを自分で考えて行動できる子ども
- <自他尊重> 高い人権意識を持ち、相手の立場や考えを尊重でき、対話による合意形成ができる子ども
- <郷土愛> 宗像を愛し、よりよい地域づくりを考え、積極的に取り組もうとする子ども

② 目指す学校像（学校力を鍛える）

- 居場所づくりと絆づくりを大切にし、教育環境が美しく整備されている学校
- 失敗を恐れず未来に向かって挑戦する学校
- 礼節や謙虚さや寛容さを大切にし、地域に参画し、地域づくりを積極的に創造する学校

③ 目指す教師像（教師力を鍛える）

- 児童生徒理解の視点に立った指導をし、目配り・気配り・心配りができる教師

- 教育公務員としての職責を自覚し、教育への使命感と情熱を持ち、常に学び続け、子どもの長所や可能性を伸ばす教師
- 心身ともに健康であり、学校経営参画意識を持ち、協働して教育・経営課題の解決に努める教師

④目指す授業像（教師力を鍛える）

- 研究部が示す授業づくり視点の確実な授業実践
- 生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養を目指す授業実践
- ICT等を当たり前前に活用し、分からないことを大事にする授業実践

⑤目指す家庭像（自立心を鍛える）

- 子どもが自律できるように学校と協働しながら、基本的な生活習慣を身に付けさせる家庭
- 子どもとの対話を心がけ、自律を育む大人のかかわりの中で子ども自身に考えさせる家庭
- コミュニティ・スクールを理解し、学校・地域と連携・協働し、子どもと共に伸びゆく家庭

⑥目指す地域像（社会力を鍛える）

- 子どもが地域・社会の担い手となるように、地域の中で社会道徳と共助の精神を涵養し、自己有用感を高揚させる地域
- 学校・家庭と連携協働し、「地域は学校の応援団、学校は地域の応援団」、ウェルビーイングな関係づくりを推進する地域
- 学園運営協議会と地域学校協働本部の連携と一体的推進を目指す地域

（４）教育課題と経営課題

①教育課題（子どもや教職員等に解決を期待したい課題）

- ア 9年間を見通した学力の向上及び子どもの実態に合わせた質の高い授業への転換
- イ いじめ・不登校の子ども・支援を要する子ども等の増加傾向と人権に関わる今後の対応
- ウ 子どもの自律を育む大人のかかわり方へ大人の意識改革

②経営課題（学校組織として解決したい課題）

- ア 分掌会議－経営会議－運営委員会－学年部会のラインの確立と指示系統の明確化
- イ 若年層・講師の人材育成及びミドルリーダーの育成と同僚性の向上
- ウ 学校の進むべき道をそろえるためのシティズンシップ教育と小中一貫コミュニティ・スクールに関する意識向上（9年生のゴール像を意識した指導の徹底）と働き方改革の推進

（５）令和6年度 学園経営の重点

学園と学校の実態を踏まえ、学校関係者評価結果及び各種アンケート・データ等、学校の強みや弱み（アセスメント）によって見出された教育課題や経営課題を解決するため中央学園の共通の重点目標を設定し、目標達成のための経営の重点を次の3点とする。

- ① ウェルビーイングな学園・学校づくり
- ② 学力向上を図る授業づくりと学習環境づくり
- ③ 小中一貫コミュニティ・スクールの取組の充実
（「意図的な小中一貫教育」を基盤とするコミュニティ・スクール）

(6) 令和6年度 学校経営の目標

安心感を生み出す小中一貫コミュニティ・スクールの推進

『学校教育の基盤』

- 子ども・教師・保護者・地域住民の心に安心感を届ける小中一貫コミュニティ・スクール

『教育活動の基盤』

- 対話・自律を育む大人のかかわり・協働できる職員関係

『指導の基盤』

- 基本的な生活習慣と積極的生徒指導について徹底して支援します。

【私達は、揃えて・やり貫き・見届ける支援を徹底します。】

- 授業アップデートを実践します。

【私達は、個別最適な学び、協働的な学びを通して、子どもの分からないことを大事にする授業を実践します。】

- 児童生徒理解の視点に立った支援をします。

【私達は、居場所づくりと絆づくりを支援します。させるから支えるへ転換】

- ① 校内教育環境整備と対話の重視と言葉磨きを
- ② 安心安全（失敗してもいいんだよという寛容な姿勢）を
- ③ 鍛えたら、その倍、励ましと称賛を
- ④ 目配り・気配り・心配りを

(7) 課題解決のための具体的方策（最上位目的を考え、自分事として、行動することが前提）

① 教育課程の改善

- SDGsを基盤とする「総合的な学習の時間」や特別活動の単元の初めに目的意識を持たせる工夫（課題設定）、自ら考え、自ら学ぶための支援（情報収集）、単元の見通しを持たせる工夫（整理分析）、単元末に探求結果の発表（まとめ表現）・評価の場を設定するなど教科横断的な教育活動のカリキュラム編成と最適化（福岡県教育センターとの協働実践）
- 宗像市民としての市民性を向上させるための、中央中版シティズンシップ教育の実践化の推進（別図参照）
- 自己有用感を高めるため、授業や長期休業中の宿題、教育課程外のような活動における子どもの学習成果や努力そのものを認める場や評価する場の設定
- 1人1台端末をはじめとするICT機器の活用による情報活用能力の育成、授業実践を市内小中学校での先進的な実施と活用方法の質的転換、具体的事例の活用共有（継続的にICTを活用したプレゼンテーションなどによる表現の場を計画的に設定）
- 研究部を中心とした個別最適な学びと協働的な学びの構築（セルフ学習とステーション授業構想等による対話的な学びの実践）
- 授業UDの視点を意識したOJTの実施と学力向上プラン、体力向上プランの具現化
- 各教科部による定期考査問題の改善（思考力・判断力・表現力の4割出題）と授業と家庭学習の接続の在り方の実践（わからないを大切にする授業へ、そもそも宿題の在り方を考える）
- 各学年の実態合わせた子どもの基礎学力を確実に向上させる方策の実践と共有
- 働き方改革にかかわる自動採点システムの積極的活用と個に応じた学力分析の実施
- 最上位目的を達成するため、段階的な7つのイノベーションの実施

- 道徳の授業改善（考え議論する道徳の実践・自分事として自分の考え（書く）を重視した道徳
 - ・考えの根拠を大切にす道徳・自己内対話から集団思考につなげる道徳）
- スクールネットの構築：通常学級を含めた特別支援教育の充実（理念の理解、ユニバーサルデザインを生かした授業づくり、個別最適な支援への合理的配慮の実施、支持的風土づくり）
- スクールネットの構築：いじめ・不登校の防止（いじめ・不登校に関する共通認識の徹底）
 - ※福岡県いじめ問題総合対策改訂版の考え方を実践することができる
 - <いじめはどの子どもにも、どの学校にも起こりえる>
 - ・「弱いものをいじめることは人間として絶対に許されない」との強い認識を持つこと
 - ・いじめられている子どもの立場に立った丁寧で親身な指導をおこなうこと
 - ・いじめは家庭教育の在り方に大きな関わりを有していること
 - ・いじめ問題は教師の児童生徒観や指導の在り方が問われる問題であること
 - ・家庭・学校・地域社会などすべての関係者がそれぞれの役割を果たし、一体となって真剣に取り組む必要があること
 - <不登校を生まない集団づくり（居場所づくりと絆づくり）>
 - ※福岡アクション3の実践や福岡県不登校児童生徒支援リーフレットの考え方を実践できる
 - ・不登校を知る
 - ・子どものことを知る
 - ・子どもと家庭とつながる
 - ・チーム（不登校対策委員会・マンツーマン等）で支える
 - ・子ども（個）の力を高める
 - ・子ども（集団）の力を高める→かかわり方スキルの意識化と実践
- スクールネットの構築：市指導主事、S S W、S C等専門家を入れた新しい形の生徒支援委員会を設置し定期的な開催とチーム対応
- スクールネットの構築：居場所づくりや絆づくりを大切にした学級づくり（カウンセリングマインドを基盤とした担任の姿勢、3つのRの実践、リスペクト尊重・リレーション人間的ふれあい・リソース良さを生かす）

②校務分掌組織・学年組織の改善と組織運営の機能化

- 学校・学年組織を機能させる報告・連絡・相談の体制構築と徹底、協働での指導・支援の徹底
- 学校行事や総合的な学習の時間における自尊感情や効力感を高める単元構成と評価
- 生徒指導、生徒支援、特別支援を中心とした会議・対応等の対話充実
- 働き方改革委員会の設置による業務改善（スピードダウン）を通じた働き方改革の推進（来年度のスクラップミッション厳選）
- 校則検討委員会による継続的な校則検討

③教職員の人材育成

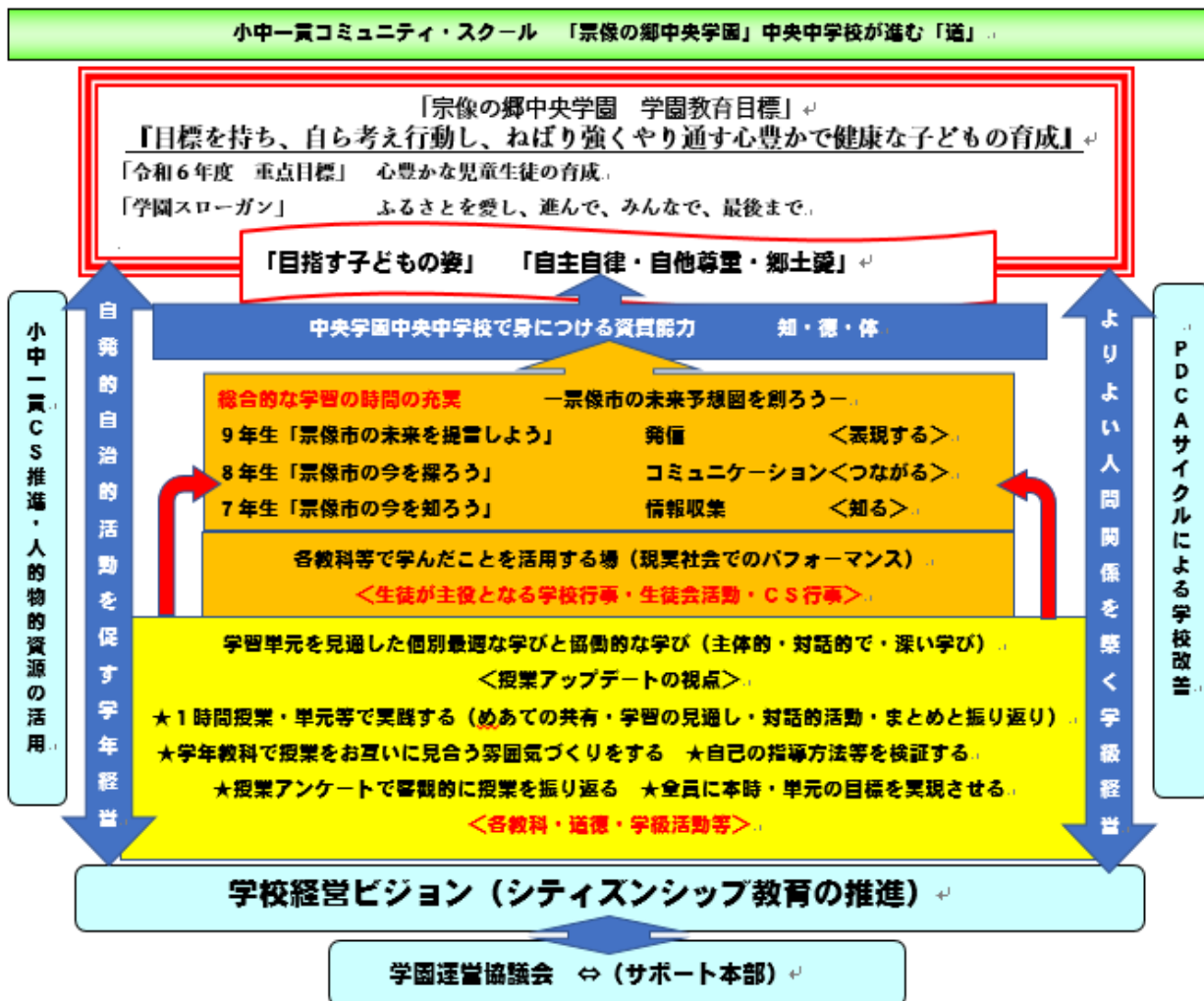
- 生徒の底力（我々大人の想像を易々と超える）を引き出す教師力（高い教科指導力・それを支える研修意欲・生徒指導力・組織の一員として職責を遂行するための企画力・運営力、一番重要なことは次はどんな刺激や感動を与えようかとワクワクしながら考える探求心）を育成するために、教師自らチャレンジ精神を持つ
- 目標設定および見通しを持たせ、「目標の達成」までの過程を重視し、教職員一人一人のよさの伸長を図る

- 教科学習における研究部より提案される授業スタイル等の全教科全職員完全実施
- 管理職等による授業訪問及び授業アンケートの結果を基にした授業アップデートの実施
- 教育公務員・社会人としての基礎基本を高める校内OJTの実施
- SDGs、シティズンシップ教育、CS活動、GIGA、体罰によらない生徒指導、生徒とのより良い関係を築き、生徒の自己指導能力を高める指導、保護者との信頼関係を築く接遇の対応、アレルギー等対応などの研修等の主体性ある新しい形式での計画的な研修の実施
- 飲酒運転、交通事故防止、薬物乱用防止、わいせつ行為、パワハラ、セクハラ行為防止等の不祥事防止研修の実施

④小学校、家庭・地域と連携した小中一貫コミュニティ・スクールの推進

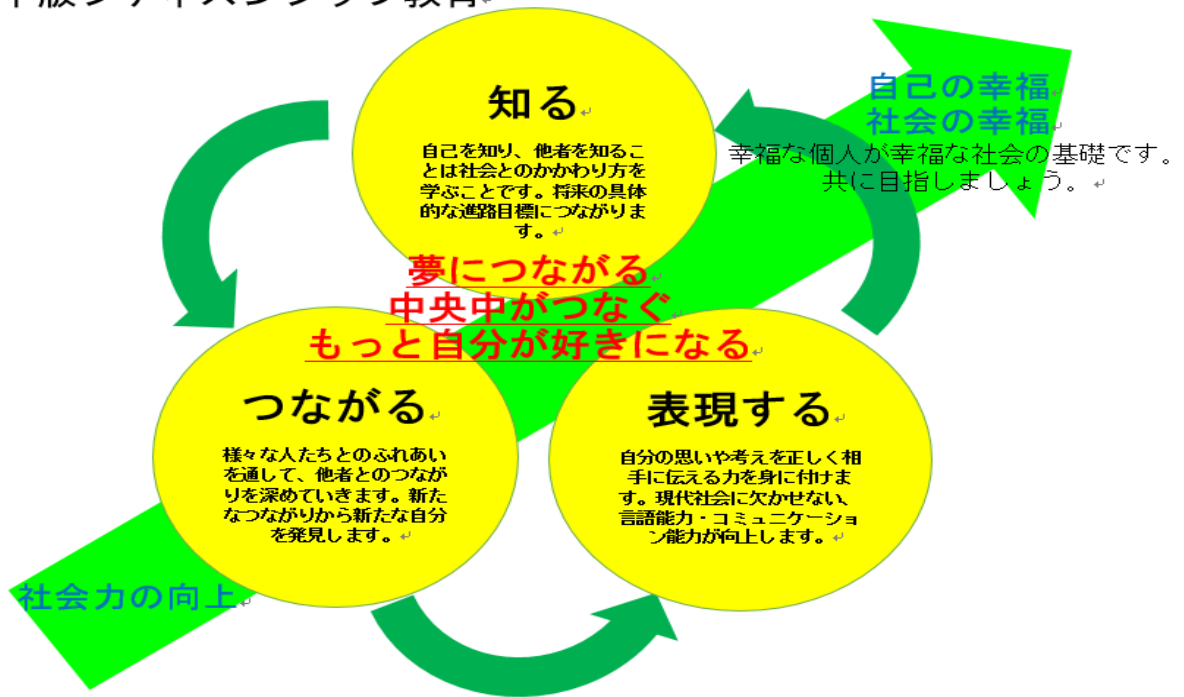
- 中央学園でできることをできる人ができる範囲での児童生徒の交流、教師間交流や積極的な中学校に関する情報の提供
- 中央学園小中一貫コミュニティ・スクール推進構想や会議内容等を全職員へ周知徹底
- 学園全体で自律を育む大人のかかわり方を推進
- 周知度を高めるためHPや通信等による積極的な情報発信
- 地域教育資源を生かした総合的な学習の時間のカリキュラムの再構築について、学園研究部を中心とし、熟議を含めた協働実施
- 学園コーディネーターと中学校CS担当職員・生徒代表等をつなぐ「しくみ」づくり

2 令和6年度 中央中学校グランドデザイン



3 令和6年度 中央中版シティズンシップ教育イメージ図

中央中版シティズンシップ教育



4 取組指標

学校経営の取組評価にあたっては、学期ごとの達成強化目標をアンケート等で振り返り、取り組み状況を確認できるようにする。

5 成果指標

学校経営の評価にあたっては、多面的・多角的な評価となるように、教職員の自己評価はもとより、生徒や保護者のフォームでのアンケート調査等のデータを活用して客観的な評価に努める。特に次の4点については、成果指標とする。

- 学力テスト（全国学テを含む）すべての学年が前年度の学力を維持または向上
- 全国学テ生徒質問項目→非認知能力の向上
 - 将来の夢や目標を持っていますか？ 80%
 - 自分には良いところがありますか？ 80%
- 学校評価アンケート（自律を育む大人のかかわり）→認めて励ます
 - 保護者：子供がうまくいかないことがあっても最後まで諦めずに取り組むことができている 3.5
 - 教師：生徒は、何事にも前向きにチャレンジしようとする。 3.5
 - 生徒：将来の夢や目標を達成できるようにチャレンジし続けている 3.5
- 授業アンケート
 - 授業アップデートの5つの視点での生徒満足度 3.5
 - 振り返りの記述での分かったこと、わからなかったことの具体的内容の増加

